



安心・笑顔・意欲をはぐくむリハビリ

N様（90歳代 女性 要介護1）
アルツハイマー型認知症、第2、3腰椎圧迫骨折

お身体の状態

物忘れが徐々に進み、直前のことをすぐに忘れる、今の時間やいる場所がわからなくなる、言葉が出にくいなどが目立つようになりました。どんぐりの利用開始時は、馴染みのない場所に来たことへの不安と、飼っている猫が心配で「わからない」「家に帰りたい」との発言が度々ありました。その他、腰痛で歩行中は杖があってもふらつき、転倒のおそれがありました。

本人・ご家族のご希望

N 様：腰が痛くて動きにくい。なるべく長く家で生活したい。

ご家族：身体のリハビリもしてほしいが、**物忘れのリハビリをぜひしてほしい**。どんぐりを利用して、人との関わりを増やして、元気のある生活を送ってほしい。

リハビリでの取り組み

昼食後に「家に帰りたい」との発言がよくあったため、リハビリはその時間に行うようにしました。同じリハビリスタッフが関わることで顔を覚えてもらい、不安の軽減、信頼関係の確立を図りました。

①N様がどのような生活をしてきて、どこまで覚えているかを確認するため、昔していたこと（裁縫、三味線・民謡、習字）や好きなこと（飼い猫の世話）を詳しくお伺いしました。

裁縫は集中して行うことができましたので、スタッフに教える形で取り組みました。三味線は「伊予節」をよく演奏していたとのことで、一緒に曲を聞いたり歌ったりしました。

好きな飼い猫のお話しは、笑顔でたくさん話してく ださいました。

②全身の柔軟性向上、両足の筋力強化、杖歩行の訓練で、腰痛緩和と杖歩行の安定性向上を図りました。



経 過



徐々に不安はなくなり、2か月後には「帰りたい」との発言もなくなりました。毎回顔を合わせていたリハビリスタッフの顔を覚え、「顔を見たら安心する」と言ってもらえるまで、信頼関係を築けました。他の利用者様と笑顔で会話していることも増え、少人数グループで体操をしていると、「私もしたい」と意欲的に参加されるようになりました。 元気のある生活を送れるようになってきたことで体が動きやすくなって腰痛も軽減し、杖歩行も安定してきました。

まとめ

N様と信頼関係を築きながら趣味嗜好を通じてリハビリに取り組んだことが、リハビリの成果や生活意欲の向上につながりました。ご家族からも、表情が明るくなったと喜んでいただきました。今後も安心して過ごせるように、興味を持って取り組める活動の提案や、コミュニケーションを図って行きたいと思います。

今後もどんぐりニュース号外として、デイケアどんぐりの取り組みをご紹介します。